

徳本行者伝

福田行誠編。慶應三（1867）年刊。

『徳本行者全集第五卷』にも所載。文中の本仏は行者の弟子の一人。

文化一三（1816）年六月八日の戸隠山登山の記録は『請
応撰化日鑑五』にもある。

六月八日。戸隠山へ登り給ふ。徳善院より案内しければ。奥

院の大久保より中院まで四十七丁。中院より奥院まで三十丁。其下に両社あり。社やしらにて法樂し給ふ。徳善院じゆんあん順庵

および妙行院。智泉院など。みな六万遍の日課を誓ふ。この

日。山に名號塔建たきよし。乞こがによりて。かきて授らる。師。

後に本佛ほんぶつにかたられけるハ。彼權現こんじきハ金色りうしんの龍身なり。其靈

窟ほらに入て。親しくあひ申て。十念授じゆんげまゐ参らしぬ。夢にてや有け

んと。の給たまひし御辞ごじのさま。御夢にてはあらぬやうに。聞な

されぬ。この處こゝは。深秘しんひの靈窟ほらなれば。さる事に申されしに

やと。本仏ほんぶつは常にかたられき。

（振り仮名は一部省略）

註 所蔵者：国文研 書名：徳本行者伝 請求番号：ヤ
3-37-3 国文学研究資料館のデータベースに画像あり
(DOI 10.20730/200005168 ID 200005168)。全 83 コ
マ中の 79 コマ目。80 コマ目は、行者と九頭龍の挿絵。